

ピクテ・マーケット・フラッシュ

2012年1月27日

先進国



FOMCの発表に最も反応したのは「ゴールド」

■ 政策金利を2014年まで低水準で維持する意向

1月24、25日の両日に連邦公開市場委員会 (FOMC) が行われました。今回の公表内容での注目点は、政策金利を2014年後半まで低水準に維持する可能性が高まったことです。FOMCは昨年8月の時点で2013年半ばまでは利上げを行わない意向を示していましたので、緩和期間が1年以上延びることになります。加えてバーナンキ議長は記者会見の席上で、追加的な量的緩和 (いわゆるQE3) の可能性についても否定しない考えを述べました。一方で、バーナンキ議長はインフレ目標を2%に設定することも明らかにしました。

■ 金先物市場の反応とポイント

こうしたFRBの金融緩和姿勢を受け、株式や商品市場が上昇しました。とりわけ、金先物が+2.1%上昇しました。金先物は欧州債務問題の進展期待や好調な経済指標を背景としたドル高の流れから方向間の定まらない展開が続いていました。しかし、今回の金融緩和姿勢が示され潜在的なインフレ懸念が高まるとの懸念を背景に金先物が上昇したと見ています。

その他の市場

為替: 米国が市場の想定以上に金融緩和に対し積極的な姿勢を示したことから、ユーロが底堅い動きを見せました。

国債: 金融緩和の長期化期待を背景に、上昇 (利回りは低下) しました。ただし、30年国債のような超長期国債は潜在的なインフレ懸念もあり上昇は限定的なことには注視が必要です。

今後は、米国がインフレ懸念を管理しつつ、金融緩和を維持できるか、米国金融当局の政策に注目が集まる展開を想定しています。

当資料をご利用にあたっての注意事項等 当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものではありません。運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中に示された意見等は、作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。

ピクテ投信投資顧問株式会社

FOMC発表前後の主な市場の動き

	発表後 1月25日	発表前 1月24日	騰落率 (差)
株式			
S&P500	1,326	1,315	0.9%
ナスダック	2,818	2,787	1.1%

為替 (対円)

	発表後 1月25日	発表前 1月24日	騰落率 (差)
米ドル	77.78	77.67	0.1%
ユーロ	101.94	101.25	0.7%

国債利回り (%)

	発表後 1月25日	発表前 1月24日	騰落率 (差)
米国 5年国債	0.79	0.90	-0.11
米国10年国債	2.00	2.06	-0.06
米国30年国債	3.15	3.15	-0.00

商品

	発表後 1月25日	発表前 1月24日	騰落率 (差)
原油先物 (WTI)	99.40	98.95	0.5%
金先物	1700.10	1664.50	2.1%
小麦先物	641	634	1.2%
銅先物	383	381	0.6%
CRB 商品指数	316	315	0.5%

S&P500: S & P500種株価指数。ナスダック: ナスダック総合指数。
為替の米ドル、ユーロは対円レート。騰落率のプラスはドル安を示します。
原油先物 (WTI): ウェストテキサス・インターミディエート (WTI) 軽質スイート
原油先物、単位は (ドル/バレル)。金先物: ニューヨーク商品取引所
(COMEX) 金先物、単位は (ドル/トロイオンス)。小麦先物: シカゴ商品取引所、単位は (ドル/ブッシェル)。銅先物: CMX商品取引所銅先物、単位は (ドル/ポンド)。CRB: CRB商品指数。
騰落率の欄、国債利回りは25日と24日の差を示しています。

出所: ブルームバーグのデータを参考にピクテ投信投資顧問作成